

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171000217		
法人名	英和株式会社		
事業所名	ぼっかぼか		
所在地	埼玉県八潮市大字八條50番地		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町村受理日	令和4年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp//index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和3年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活支援、自立支援を職員は理解しており、生活リハビリとして掃除、洗濯、調理等一人ひとりの残存機能を活用していただけるよう入居者様に合った介護を行っている。ご入居者様が馴染みのある空間となるようご本人の意思、ペースを尊重しその人らしい生活を送っていただく為に馴染みの家具を配置する等今までの生活を大切に出来るようコーディネートしている。くつろぎの空間として和室、中庭があり、お茶を飲んだり、日向ぼっこをしたり、入居者様同士の交流の場となりのんびり過ごしています。外出の機会を持ち散歩したり公園に出かけています。以前はサーカス見物もした。室内行事としては春祭り、夏祭り、敬老会、当季節感を大事にしている。市内のお祭りや町会のお祭りにも参加していたが、市内のお祭りはコロナ禍で中止している。

法人、事業所共通の理念として、「1ゆったりと、ゆつくりとした安心と安らぎのある暮らしをつくります。1生活リハビリを取り入れて利用者の自立を目指します。1地域や社会と密着したホームをつくります。1暖かい心、優しい目線で接し人としての尊厳を守ります。1ぼっかぼかは身体拘束を行いません。」を掲げている。この理念を基に、職員は利用者寄り添い様子を観察し、どんな時にどんな行動をとるのか情報を共有している。できる事は何か、できない事は何か、なぜできないのか、できるように何をすればよいかを常に話し合っている。車椅子の方にも手すりやテーブルを拭いてもらい、できる事を手伝ってもらっている。利用者に手伝ってもらう事は家族にも喜ばれている。地域との関係は良好で、事業所開設時から親しく付き合い、災害時の協力もお願いしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員が常に確認出来るよう玄関、エレベータ前に設置している。理念に基づいた介護支援を行えるよう勉強会を開催している。	法人、事業所共通の理念を基に利用者がゆったりとした安らぎのある暮らしができるように支援している。温かい心、優しい目線で利用者の尊厳を守り、地域や社会と密着したホームづくりを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において運営推進会議は休会中であるが、地域包括支援センターからの情報と共に施設の情報を毎回手紙にて報告している。	自治会に入会し、コロナ禍以前は町会の夏祭りに参加していた。事業所のお祭りや年2回のバーベキュー大会には近隣の人も招待し、地域との交流を深めていた。傾聴や活ける花のボランティアが来訪していた。	多くの方にグループホームというものを知ってもらえるように、地域との付き合いを今以上に深めたい。中学生、高校生～若い人にも知ってほしく、ボランティアとしての来訪を希望している。早期に実践されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や運営推進会議を通じて地域交流を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において運営推進会議は休会中であるが、感染対策等、電話で情報を頂き感染予防に活かしている。	年2回、地域包括支援センター職員、町会長、老人会長、地域の方、家族の参加を得て開催されていた。事業所からは行事や利用者の状況報告を行い、参加者からは連絡、意見をもらい、情報交換をしていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センター職員や、入居者様の家族にも参加して頂いている。地域密着サービス事業者連絡会議に参加し、情報交換し協力関係の構築に努めている。	市主催の歌と踊りの祭典に利用者も参加していた。同業の事業者連絡協議会にて情報交換をしている。毎月、介護相談員が来訪し、利用者、職員と話をしている。市の窓口へは随時出向き連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けている。勉強会やカンファレンスを開催し、職員全員が理解できるよう努めている。	「身体拘束を行いません」は事業所の理念でもある。3か月に1度、拘束廃止委員会を、年2回、勉強会を実施して事例勉強をしている。どんなことが拘束になるのか理解し、利用者へは目線を合わせて丁寧に声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや事例検討会による勉強会を開催し、虐待防止を職員全員が理解できるように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用していたご入居者様がいたこともあり、理解している職員は多い。又、必要と思われる際に説明する事によりお互いに知識理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問が残らないよう十分な説明を行っている。改定は書面でお知らせし、必要に応じて説明をしている。署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居様には希望、意見を言えるように関り方雰囲気作りに努めている。ご家族、友人との電話、手紙の取次ぎも行っている。御家族とは電話、手紙のやり取りをしている。面会時にコミュニケーションを図り意見を伺い、玄関に意見箱設置している。	意見箱を設け家族の面会時に意見を聞いている。毎月家族に手紙を書き、利用者の様子を伝えている。リハビリに注力してほしいとの意見にはカンファレンスで利用者個々のリハビリ内容を話し合い検討した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は意見箱や、必要時カンファレンスを開催し、日々の業務においても随時意見交換し、年に1回と、必要に応じて個人面談を行なっている。	意見箱には職員も投函できる。毎月全員参加のカンファレンス会議を行い活発な意見が出ている。「とにかくやってみよう」を基本としている。利用者の状態や気持ちの変化を記録して情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の意見や、年に1回の個人面談において業務評価を行い職場環境や条件に配慮出来るよう努めている。3年勤務表彰旅行を行い、10年勤務の職員には商工会主催「優良従業員表彰」に推薦し表彰を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や資格取得を奨励している。資格取得補助や給付を行い支援している。2年間看護学校に通学し准看護師の資格をとった職員あり、その間の学費、給料をすべて会社で負担し、支援した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス事業者会議や地域の協議会を活用して交流、情報交換を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメント情報を確認し、ご入居者様と関わっている。コミュニケーションを図り傾聴を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に入居者様、家族と話し合いご意見、ご要望を十分伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の十分な聞き取りに基づいてサービスを検討、ケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念に基づき過度な介護や介入をせず、入居者様の生活に寄り添う意識を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙で報告している。必要時には病院受診に家族と職員がいっしょに同行し、電話連絡や面会時にコミュニケーションを図り、意見交換しながら連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ハガキや手紙、電話の取次ぎを行ったり、御家族、友人との面会をしている。コロナ禍で、外出は控えている。	利用者は手紙や電話で友人知人と連絡をとり、暑中見舞いや年賀状は全員が書いている。家族同行で行きつけの理髪店や墓参りに行く方もいた。現在は家族との面会が再開され、玄関での短時間だが喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じた介入を行い、元気な利用者様が元気の内利用者様を慰めたり話しかけたりしている。中の良い同士で作品を作ったり、ソファアードおしゃべりをしている。利用者様同士円滑な関係が保たれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に相談できる環境作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重すべく日々コミュニケーションを通じて希望や意思の把握に努めている。買い物や受診の希望等、御家族と連携を取り把握に努めている。	毎日午前と午後のお茶の時間には職員も一緒にお茶を飲み、会話の中で利用者の声を聞き、表情や目線から気持ちを知るようにしている。職員の在職期間が長く利用者と接する様々な場面から理解を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族から本人の生活歴、生活環境を聞きケアに取り入れるように努めている。馴染みの家具や仏壇を持ち込む方、好きだった本、ラジオを持ち込み楽しんでる方もいます。入居後も家族と連携を取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やカードックス、月次を作成し情報を共有。日々の申し送りで特変事項を申し送っている。往診医、医療機関とも連携している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや月次を作成しケアプラン見直しの検討材料としている。ご家族や医療機関とも適時相談し、ケアプランに反映させている。	短期6か月、長期1年の見直しとしている。毎月のモニタリングで居室担当者が利用者の状況を報告し、本人と家族の意向、医師、看護師の意見を基にカンファレンスを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やカードックスを作成して日々の様子を一目で分かりやすくしている。申し送り等で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員1人ひとりの意見を検討しながらサービスの変更も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会に加入している。地域の行事に積極的に参加している。毎年9月に行われる「歌と踊りの発表会」に参加し、500人を前にボランティア、家族と共に「北国の春」を発表している。今コロナ禍で休止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の往診医へ移行されるか、入居前のかかり医を継続されるかは選択できる。	利用者は3、4週間に一度内科往診を受けている。歯科医は2週間毎に来訪している。他科受診は原則家族対応だが職員が同行することもある。緊急時は救急搬送又は医師に連絡して指示を仰ぐことにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関りの中でご入居様の状態把握に努め、適時看護師に相談出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提出、面会時には状態把握に努め適時看護師に相談出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の際の契約を書面で交わしている。重度化、終末期に至る状況においては適時ご家族、往診医と相談しケアの方針を決めていく。	家族には入居時に事業所としての指針を説明している。重度化した場合は医師の意見を基に家族、医師、看護師、職員と話し合っている。事業所としては家族の協力を得られるかどうか重要な事と考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員の資格取得を目指し、救急救命講習会を受講させている。		
35	(13)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的に行っている	各ユニットにマニュアルが設置されている。年2回デイサービスと共に防災訓練を行っている。台風時において水害を予測し、垂直避難を行った事あり。	年2回、消防署と連携して夜間想定も含めて避難訓練を実施していた。消火器や避難はしごの使い方、緊急連絡網のテストなどを行い、水害時の2階への垂直避難訓練も実施した。備蓄品は3日分保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに適した声掛け、声のトーンにも気を配っている。	利用者の尊厳について年2回研修を行っている。個人ファイルは鍵付きの棚に保管し、パソコン内の個人情報は個人用のUSBで管理している。声かけはゆっくりと落ち着いて話しかけるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活をしていく中で入居者様の好き嫌いを把握し、コミュニケーションに努めている。食事何かが食べたいか提案してもらいメニューに取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の予定をコーディネートしつつ、本人のしたい事、意見を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みで服が切れるように一緒に買い物に出かけたり、化粧品をそろえたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大事にしている。目で見ても楽しいように工夫し、盛り付けも大事にしている。一人ひとりが作業できるメニューをとりいれている。食器拭き、テーブル拭き等。恵方巻、おせち料理、七草がゆ等は季節感。	管理栄養士によるメニューで職員が調理している。日曜日は利用者希望による鍋物、丼物、ピザ等を提供し、おやつにはクレープ、あんみつ等を楽しんでもらっている。正月の本格的なおせち料理は好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を常にチェックし、無理のない提供ができています。管理栄養士とも連携が取れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行なわれている。適時介助にて口腔ケアを行っている。毎食後義歯消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレでの排泄が出来るように努めている。羞恥心にも配慮してトイレの促しを行っている。	排泄チェック表から個々のリズムを把握し、小声でトイレ誘導をしている。事業所の方針としてオムツ外しを目標にしている。病院退院後は少しずつリハビリ運動をして、以前の状態に戻るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操やレクリエーションを行う事で便秘予防に努めている。記録にも記入されており、便秘が続くようであれば水分補給等に努め、往診医にも相談できている。		
45	(17)	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば入浴出来るように、環境作りに努めている。庭に咲いたバラでバラ風呂を提供し、冬は入浴剤で温泉風呂を楽しんでいる。	週2回、午前に入浴している。入浴前後は水分補給を行い、入浴剤で温泉風呂、季節には菖蒲湯、ゆず湯を楽しんでもらっている。個別のシャンプー等の利用者もいる。希望があれば同性介助にも対応する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康的な生活のリズムを保ち、日頃の関りを通してご入居者様の体調や体力の把握に努め、適度に休息や昼寝を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が訪問しアドバイスを受けている。服薬の変更時には周知の徹底を図り、様子観察をし変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事をそれぞれが出来ることを行っている。季節毎のイベント、懐かしの映画館等、メリハリのある生活支援が出来ている。春秋のバーベキューは恒例となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日用品の買い物や、受診の希望等ご家族と協力し希望の実現に努めている。近隣を散歩したり、ドライブで外出出来ている。中庭での体操や、ティータイムを楽しみながら外気浴も行っている。	体調と天候をみて、日常的に30分ほど車や人を避けたコースを散歩している。以前は近隣の店へ買い物にも出かけていた。家族同行でお墓参りや親戚の集まり等で外出する際には食後の薬やトイレについて家族に説明をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や買い物等で、商品を選び、購入して頂く機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の取次ぎは行っている。入居者様は暑中見舞い、年賀状を友人や家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の手作りで、室内の装飾に季節を取り入れることで、雰囲気演出を図っている。照明や室内の温度にも配慮出来ている。	壁には利用者と職員で作った季節感のある作品が掲示されている。廊下には写真が多数飾られて利用者に好評である。リビングの一角に和室があり日向ぼっこができる。昼間は全員が居心地の良いリビングで過ごし、利用者同士仲が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、和室等スペースを確保しており居室も含めてお好きな場所できつろいで頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んで頂き、安心感や居心地に配慮している。家族の写真、ラジオを持ち込んでいる。	入口ドアには自作の作品を飾り、目印にしている。エアコン、照明、カーテン、電動ベッドが備品である。タンス、ドレッサー、仏壇等馴染みの品物を自由に持ち込み、家族写真や趣味の本、雑誌を置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアに自分の作品を飾り場所が分かるようにしている。トイレも分かりやすい環境作りをしている。		